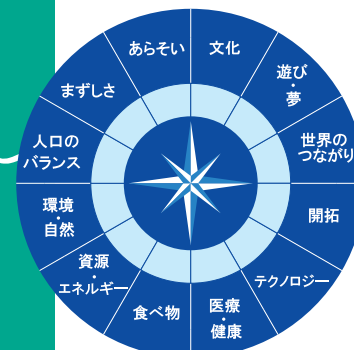


紙上採録

持続可能な社会を
みんなで考える

「サス学」で未来をひらく



「サス学」羅針盤

物事を考える時のヒントとして使う羅針盤。アイデアに詰まったとき、考えを整理したいときに繰り返し使います。

三井物産が毎年夏に開催する「サス学」アカデミーは今年で6年目を迎えた。世界が変化するスピードが速まり、環境、資源、科学技術、国際情勢など、国や地域が抱える問題がますます複雑化するなか、参加する小学生たちは未来の都市の課題に向き合う。5日間の真剣勝負を経て、世界に向けるまなざしが変わり、サステナブルな社会をつくる力が磨かれた。教育関係者も関心を寄せる、「サス学」の取り組みを紹介する。

三井物産「サス学」アカデミーとは

「サス学*」は、サステナブル(持続可能)な社会のためには何が大切かを学び、自分たちができることを考え、みんなに伝える力を育む学びのこと。アカデミーでは食料問題や環境問題、エネルギー問題など、世界のさまざまな「困りごと」=課題の解決に取り組む三井物産の事業を教材として取り入れながら、より豊かな未来に向けてみんなで本気の議論を戦わせます。
*「サス学」は三井物産の登録商標です



丁寧な課題抽出で自分ごと化する

6回目となる今年のテーマは「モビリティ」。小学4〜6年生の30人が2050年の「宇宙都市」「海沿いの途上国の都市」「海沿いの少子高齢化の地方都市」「メガシティ」「砂漠都市」という五つのチームに分かれ、都市が抱える課題をモビリティを使って解決するため、5日間かけてアイデアを生み出す。最初に取り組んだのは、自分が暮らす都市がどんな環境でどんな課題に直面しているのかを探ること。

連づけてまとめて解決してみたり。そんなプロセスを経て重点的に取り組むべき課題が明らかに。都市の輪郭がはつきりとしてくる。

身の担当事業をレクチャーする。今年はモビリティ研究をはじめ、船舶事業、三井物産の



業や、その事業がクラウドファンディングで実現していることが伝えられたり、スムーズに動く小型ドローンが目の前で操縦されたりと、さまざまな角度から発想のヒントが与えられていく。これらを踏まえ、子どもたちは各都市に必要なスマートシップ、ドローン、形状や用途を自由に設定できる「なんでもモビリティ」の三つを考案した。会期中には三井物産の藤井晋介副社長が会場を訪れ、子どもたちの活発な議論を見学。豊かな発想に目を見張る場面もあった。

最終日まで続いた議論と各日のまとめ発表を経て、意見を持つことや伝えることの大切さを学んだ子どもたち。実際の発表でもオリジナリティあふれるモビリティを使って課題の解決方法を披露し、保護者やスタッフを沸かせた。

5日間という小学生の体験学習としては異例の長さの「サス学」アカデミー。未来の都市や人の暮らしを深く考察する経験は、忘れられない記憶となって子どもたちの胸に刻まれるようだ。さきよだいの発表を見守っていた過去の参加者は、かつての経験が「自信になっている」と明かす。また保護者からも「世の中のユースに興味を持って自分なりの意見を述べるようになり、成長を感じた」という声が上がった。

子どもたちを大きく成長させる充実のプログラムは、文部科学省「青少年の体験活動推進企業表彰 特別賞」など複数の受賞歴があり、高い評価を得ている。三井物産では今後も「サス学」アカデミーを通じて、持続可能な社会の実現に自分らしいアプローチで貢献する次世代人材の育成に注力していくという。

「サス学」アカデミーでは毎年、テーマに関連する事業に最前線を取り組む三井物産の社員が自

発想を飛躍させるいくつもの仕掛け

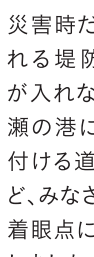
「サス学」アカデミーでは毎年、テーマに関連する事業に最前線を取り組む三井物産の社員が自

身で、その事業がクラウドファンディングで実現していることが伝えられたり、スムーズに動く小型ドローンが目の前で操縦されたりと、さまざまな角度から発想のヒントが与えられていく。これらを踏まえ、子どもたちは各都市に必要なスマートシップ、ドローン、形状や用途を自由に設定できる「なんでもモビリティ」の三つを考案した。会期中には三井物産の藤井晋介副社長が会場を訪れ、子どもたちの活発な議論を見学。豊かな発想に目を見張る場面もあった。

最終日にはジオラマと小型ロボットEV3を用いて、未来都市のコンセプトとモビリティを発表する。子どもたちは人ひとりが得意分野を生かしてツールを制作。絵を描く、ブロックを組み立てる、ストーリーを考えるなど作業を分担し、時々集まっては方向性を確認する。役割を果たそうと責任感が芽生え、チームワークが強くなる。

子どもたちを大きく成長させる充実のプログラムは、文部科学省「青少年の体験活動推進企業表彰 特別賞」など複数の受賞歴があり、高い評価を得ている。三井物産では今後も「サス学」アカデミーを通じて、持続可能な社会の実現に自分らしいアプローチで貢献する次世代人材の育成に注力していくという。

多様な意見に耳を傾け広い視野で考える



三井物産 副社長 藤井晋介さん

災害時だけ現れる堤防、船が入れない浅瀬の港に取り付ける道路など、みなさんの着眼点に感じました。新しいモノをつくる時には色々な声が上がります。賛成する人もいれば、反対する人、不安を感じる人もいます。この経験を生かして多様な意見を取り入れ、柔軟な発想でモノを生み出す人になってください。

「共に生きる社会」を支える人になろう



三井物産 サステナビリティ経営推進部長 白江喜実子さん

吸収力に優れ、想像力と創造力にあふれるみなさんが、こんな都市とモビリティをつくってくれたこと、うれしく思います。そして都市間で交流して課題を解決していて、頼もしく感じました。相手のことを考えて共に生きる姿勢は、今後の社会に欠かせないもの。その担い手として力を発揮してください。

さらなる成長のため伝える力を磨こう



「サス学」アカデミー 杉浦正吾先生

5日間大きく成長したと思います。この経験を将来に生かすため、一つ宿題を出します。それは「伝える力」を磨くこと。人を巻き込んで具現化する力になります。今は中高生が世界を驚かせるプロジェクトを生み出す時代です。今回みんなはその入り口に立ちました。社会に関心を持ち、自分に自信を持って挑戦しましょう。

宇宙都市チーム



ビッグ・ワン・シティ 宇宙が安心して暮らせる場に

たくさんの人が暮らせる宇宙都市。地球を離れて生活する時の課題として健康と安全を重視し、病人のケアや人との交流がスムーズになるスピード輸送の方法を考えた。地球さながらの暮らしがかなう宇宙船、病院のある星に急行するねこ型モビリティなどを披露。



発表で使われた小型ドローンとプログラミングロボットEV3 (EV3協力：株式会社アプレル)



海沿いの途上国の都市チーム



海住号

貧困を克服して貿易で栄える

海面上昇で陸地が沈むことを想定した海沿いの都市では、洋上で新たな暮らしを始めるため、海洋ごみを吸着・加工して成長するエコな船を考案。世界の港をめぐる貿易し、他国の貿易をサポートするモビリティを貸し出す。支援への恩返しというアイデアに拍手が起った。

海沿いの少子高齢化の地方都市チーム



みんながしあわせ村 楽しく安全で新鮮な体験が待っている!

人が少なく楽しめる場所がなかった都市に、遊園地やビーチなどを設けて集客。豊かな自然ときれいな空気を生かし、遊びに来やすい観光都市をつくった。自然災害が起きた時には地面が動く力や炎をエネルギーとして吸収・活用するモビリティが活躍し、安全を確保できる。

メガシティチーム



時織

技術が発展し続ける未来の東京

さらに人口が増えて開発が進む東京を「時織」と命名。多様な人と交流したりさまざまな仕事に就いたりできる都市の課題は土地不足と自然破壊。そこで宙に浮く家やホテル、商店を考案。人は空で暮らし、地上には緑を茂らせて生き物が暮らす場に。空中生活での健康管理法も紹介。

砂漠都市チーム

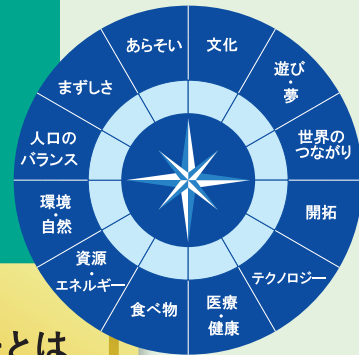


Ca va くーるたうん 緑化が進んだ涼しくてカッコイイ都市

2050年は三つのモビリティで緑あふれる砂漠が誕生。観光船が砂を固めて整地し、カニ型モビリティ「さばっかに」の背に植樹して動く森を走らせる。この森を育むのは人工降雨ドローンの「さばくも」、栄養を投下するドローンの「さばーば」。環境に配慮した快適な暮らしが実現しそうだ。



2050年のモビリティ



人とモノが深海や宇宙を自在に行き交う時代が、すぐそこまでやってきている。未来の暮らしでは、移動や輸送の手段がより重要な役割を果たしそうだ。生活を豊かにする「モビリティ」って、どんなものだろう――。

今年で6回目を迎えた「サス学」アカデミーに、30人の小学生が参加。頭をフル回転させ、持続可能(サステナブル)な未来を考える5日間のプログラムに挑みます。

三井物産「サス学」アカデミーとは

「サス学*」は、サステナブル(持続可能)な社会のためには何が大切かを学び、自分たちができることを考え、みんなに伝える力を育む学びのこと。アカデミーでは食料問題や環境問題、エネルギー問題など、世界のさまざまな「困りごと」=課題の解決に取り組む三井物産の事業を教材として取り入れながら、より豊かな未来に向けてみんなで本気の議論を戦わせます。
*「サス学」は三井物産の登録商標です

「サス学」羅針盤

物事を考える時のヒントとして使う羅針盤。アイデアに詰まったとき、考えを整理したいときに繰り返し使います。



初日から夢中になって話を聞く参加者たち

1・2日目

未来都市の課題を解決するアイデアを出そう

今年のテーマは「モビリティ」。参加者たちは5チームに分かれ、「宇宙都市」「海沿いの途上国の都市」「海沿いの少子高齢化の地方都市」「メガシティ」「砂漠都市」のいずれかの都市の住民として、2050年の暮らしを考えます。まずは未来年表を読み込んで、近未来の生活をイメージ。そこから自分たちの都市の特徴と課題をつかんで、暮らしを支えるモビリティのアイデアを練っていきます。話し合いの前には三井物産の社員が会場を訪れ、最新のモビリティ研究や船の事業についてレクチャーしてくれました。



「サス学」アカデミー
杉浦正吾先生

1 モビリティには色々な特徴がある!

モビリティとは「動きやすさ」や「動くことができる能力」のことです。車などの乗り物をイメージすると思いますが、「歩く」も立派なモビリティです。理想のモビリティを考えるには、さまざまな視点を取り入れる必要があります。例えば、移動弱者の存在。高齢者や障がい

者、妊婦だけでなく、大雪などで電車が止まってしまって家に帰れない、という状況にある人も移動弱者です。「速い」「安い」「安全」「便利」「快適」「エコ」「楽しい」「稼ぐ」など色々な特徴を持ったモビリティがあります。都市の状況に合わせて考えてみましょう。

MaaS※という
移動をスマートにする
仕組みも近い将来には
当たり前になります!



三井物産戦略研究所
割石浩司さん

※Mobility as a Serviceの略

2 みんなの暮らしを支える船を知ろう

日本と外国または外国同士で衣類・自動車などの製品、穀物、燃料など、さまざまなものが毎日取引されていますが、その95%以上が船で運ばれていることはあまり知られていません。三井物産では商船の売買に加え、船のオーナーと荷物を持っている人やそのスケジュールに合わせて船を手配する人をつなぐ仕事など、みなさんの毎日の生活を陰ながら支えている船の仕事に全力で取り組んでいます。

一方で船のことを知れば知るほど船や海が抱える課題に気が付きます。近年の大きな課題は船の排気ガスによる大気汚染、海洋ごみ、船員不足などです。私たちは今、未来のためにできることを考え、より環境に優しく安全で便利な船や港湾づくり、環境によい船が評価されるための仕組みづくりを進めています。「船」や「海」を通じてみんなの生活がより豊かで心地よくなるようにみなさんの意見も聞きながら頑張りたいと思います!

SDGsを意識しながら考えよう!

「サス学」は、社会のさまざまな物事を「つなげて考える」ことがポイント。一つの物事に複数の視点からアプローチしたり考えを膨らませたりする時に使う「サス学」羅針盤や、SDGs(持続可能な開発目標※)について学び、各チームはその項目や目標を自分たちの都市に当てはめていきます。そして課題を解きほぐしたり、まとめて解決できるようにアイデアを編み込んだりしながら、未来のモビリティを考えました。メインファシリテーターの杉浦先生に「アイデアは全部正解で、間違いはありません。どんどん意見を出し合おう!」と背中を押された子どもたちの議論は白熱。連日アイデア出しのフセンが足りなくなるほどの盛り上がり!

※SDGsは「誰一人取り残さない」という理念の下、2015年に国連サミットで採択された世界共通の目標。17分野あり、169の具体的な項目がターゲットとして示されている。2030年までの達成を目指し、国・企業・個人などが取り組んでいる。



書いたフセンをグループ分けて
問題点を明らかにしていく



メガシティチームは
人口集中によって
起こる問題に注目

みんなの都市で活躍するスマートシップ

宇宙都市チーム



こんな都市

宇宙空間自体が都市になると想定。課題は医療や食料の確保。宇宙エレベーターで地球とつないで貿易をするなど、連携が重要になりそう。

▶スペースシップシティ

地球での暮らしを忘れずに過ごせる体験施設や貿易ルームがある宇宙船。太陽光で発電する。衝突事故を防ぐビッドな色合いが特徴。



海沿いの途上国の都市チーム

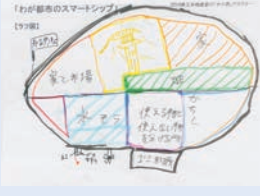


こんな都市

海抜が低く、地球温暖化による海面上昇で国土消滅の危機。大きな課題は経済。改善できれば医療・衛生環境・教育など多数の問題が解決するかも。

▶成長の船

住宅や市場などがある船上都市。海面上昇で暮らしの場が船になると想定して考案。海洋ごみを吸着・加工して大きくなり、便利に発展していく。



海沿いの少子高齢化の地方都市チーム



こんな都市

過疎化が進んでいるため、人と仕事が少ない。解決の手がかりはお金が循環するシステムをつくること。自然や土地を生かす方法を考えたい。

▶ABS(Air Beautiful Ship/空気のきれいな船)

集客や交流を重視し、遊園地を備えた船。観覧車の動力を使った空気清浄システム、太陽光発電などで空気をきれいに保ち、特産品として販売する。



メガシティチーム



こんな都市

今後ますます人口が増えていくと予測される。土地と空間を有効活用することで、環境と人々の健康を守りたい。争いが起きない工夫も必要に。

▶海陸空(オーシャングラウンドスカイ)

土地不足を意識した海陸空のあちこちを旅できるホテルシップ。1隻につき1000人が宿泊可能。植樹によって環境や景観にも配慮している。



砂漠都市チーム

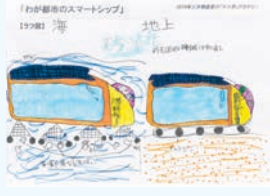


こんな都市

気象条件が厳しい。砂ぼこりや地形の変化で住みにくく、移動しにくいという問題が。出掛けづらく、来てもらいにくい状況を変えたい!

▶砂漠丸

砂を特殊加工した観光船で地中や海上をめぐる。動力は太陽光と回収した海洋ごみ。環境を守ることができ、エネルギーを売ることで収益も上げられる。



他のチームの課題や対策を聞いて交流していた都市を検討

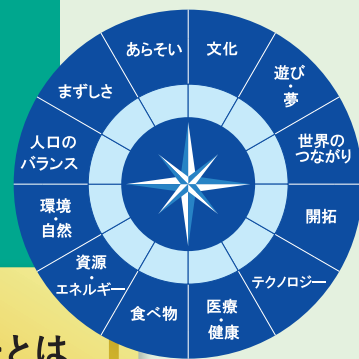
みんなの感想

- 未来には、今日、自分たちが想像した様な船があるかもしれないのだと思い、ワクワクしました。
- 羅針盤を使うといろんな視点から見る事ができた。
- みんなで考えた船は最高にいいと思いました。
- プレゼンテーションでは色々な意見が出てきて面白かった。想像できないようなこともとびで楽しかった。

今回は9月14日(土)掲載予定です

三井物産「サス学」アカデミーのきろく②
(2日目)(後半)世界初のドローンを考えよう
(3日目)発想力が試される!「なんでもモビリティ」

紙上採録 「サス学」でつくる エコで新しい乗り物



都市が抱える課題と向き合うのは難しい。でも、みんな
で話し合えば、一人ではとても考えつかないようなスケール
の大きなアイデアが生み出せる。まだ世界にない、全く新しいモビリティで、豊かな未来をつくり出そう。

今年の「サス学」アカデミーは、「モビリティ」がテーマ。2・3日
目は都市の課題をより深く考え、解決法を探っていきます。

三井物産 「サス学」アカデミーとは

「サス学*」は、サステナブル(持続可能)な社会のためには何が大切かを学び、自分たちができることを考え、みんなに伝える力を育む学びのこと。アカデミーでは食料問題や環境問題、エネルギー問題など、世界のさまざまな「困りごと」=課題の解決に取り組む三井物産の事業を教材として取り入れながら、より豊かな未来に向けてみんなで本気の議論を戦わせます。
*「サス学」は三井物産の登録商標です

「サス学」羅針盤

物事を考える時のヒントとして使う羅針盤。アイデアに詰まったとき、考えを整理したいときに繰り返し使います。



熱い議論を交わし都市の問題を解決する「なんでもモビリティ」を考案

2・3日目 もっとアイデアを広げてみよう!



空中で停止したり、回転したり。ドローンの動きにみんな釘付け!

2日目の後半はドローンの活用事例として、「三井物産の森」や途上国で医薬品を届けるプロジェクトを紹介しました。杉浦先生から、共感を得られるいいアイデアなら、世界中からお金が集まりプロジェクトが実現することを聞くと、みんなの目が輝きはじめ、ワクワクしながらドローンプロジェクトを考えます。

なんでも動かせるモビリティは本物のロボットを用いてのアイデア出しで始まります(協力：株式会社アフレル)。こんなものあんなものが動くこと便利だね! チーム内での意見出しはとどまることを知りません。

3 持続可能な林業でドローンが活躍中!

三井物産は全国74カ所に森を持っています。林業を営むことで適切に管理しています。そして、人が立ち入るのが難しい状況でも色々な作業ができるドローンを活用しています。林業は「植える・育てる・伐る・使う」というサイクルを繰り返して木材を生み出しながら緑を維持するのですが、ドローンを使うのは「植える」「育てる」のシーン。森にすむ動物がせっかく植えた苗の新芽を食べないよう、防

護柵の点検をしています。これは今まで人が時間をかけて行ってきた重労働なので、ずいぶん楽になりました。また昨年は大地震で発生した土砂災害の調査にも使われ、立ち入るのが危険な場所の状況を把握することができました。現在の森での役割は映像撮影がメインですが、これからもっと高度な作業ができるようになるかもしれませんね。使い道はたくさんあると思います。



三井物産 サステナビリティ経営推進部 近藤大介さん

緑を守るための森の調査にドローンを使っています!

二つのモビリティでよりよい都市に

宇宙都市チーム



速くて安全! 宇宙のお出掛け

広大な宇宙を快適に移動できるようにしたい。そんな時の心配事のの一つがエネルギー。スピードを落とさずより遠くまで行く方法を検討。

重病にかかったらどうする?

宇宙都市では軽度の病気はAIが診療。しかし、一刻を争う病気にかかった時には病院のある星に急行する「宇宙の救急車」が必要になる。

▶ EMERGENCY CAT (エマージェンシーキャット/救急ねこ)

病院とのビデオ通話をもとに緊急処置をほどこしながら移送。隕石や宇宙ごみをAIが検知し、吸収して動力にする。他の宇宙船や吸収できないものは透過。遠くからでも見つけやすいような色に。



▶ SSH(スクエアスペースホーム)

ドローン

移動用ドローンは居室タイプと荷物タイプがあり、連結可能。居室タイプはベッドや家具を備えていて、くつろげる。太陽光エネルギーで動くので、遠くまで出かける。

海沿いの途上国の都市チーム



命と人の未来が最優先事項

今貧困に苦しんでいる国や都市の課題は、まだ続いているはず。命と人の未来に関わる「医療と教育」を手厚くする手段が求められる。

貿易都市にならなくちゃ!

貧困状態にある船上都市のため、貿易が頼り。これから増えるはずの船の渋滞を解消したり、他の都市が貿易しにくくなりたりするモビリティをつくりたい。

▶ 船アリガティ

船上から相手の船に港や道路を出し、二つの船をつなぐことができる2段構造の連結型モビリティ。上段は道路で、下段は港。スムーズに荷物の受け渡しができる。他の都市に貸し出すこともできる。



▶ 貧困グッバイドローン

ドローン

医療と教育を充実させるため、医薬品・教材・テレビ電話システムを積む。学校へ通えない子どもがスキマ時間に勉強できる。医薬品と教材は分離可能で、それぞれの目的地へ飛んでいく!

海沿いの少子高齢化の地方都市チーム



これまでにないエンタメ体験を

若い人にも遊びに来てもらい、住民と交流したり経済をうおしたりしてほしい。「みんなが楽しく過ごせる空間」をつくろう!

高齢者を災害から守るために
地方にあって自然が多いことは魅力的だけれど、災害リスクは高いはず。高齢者の逃げ遅れをケアし、レスキューするシステムの弱さを補いたい。

▶ Disaster ZERO (ディザスターゼロ/災害ゼロ)

まちに配備した人型ロボットが合体・巨大化。地震、火事、津波、台風などを押さえ込む。大地が動く力や炎はエネルギーに変換。災害のすべてがゼロ化され、役立てられる。



▶ 心身共にドローン・恐竜新世界

ドローン

船上遊園地のVRを使ったアトラクション・ドローン。こわい話などのゾクゾク体験、古代の恐竜世界への旅が楽しめる。落下速度はレベル分けされ、色々な人が利用できるものに。



メガシティチーム



今すぐほしい癒やしの存在

人が増えると、価値観の違いによる争いやストレスが発生する。持ち主を癒やしたり、守ってくれたりするモビリティはみんなが使いこなせる!

地上に住めない問題発生!

土地開発や人口増によって自然が減り、居住地も確保できなくなると想定。環境保護を考え、大規模な緑化をするために「空中」を活用したい。

▶ Citta Volante (チッタボランテ/空飛ぶまち)

飛行機に乗っている感覚で暮らせるモビリティ。移動が楽で快適な暮らしを実現。しかし、運動不足は気になるところ。突然階段が現れるなど、程よく体を動かすことで健康を管理できる。



▶ アニマルドローン

ドローン

持ち主が思う通りの動物になる、ペット型ドローン。スマートスピーカーのように会話することができ、日々のニュースも教えてくれる。散歩をすることで都市の空気がきれいになる。



ドローンとEV3を使ってアイデアをカタチに



(EV3協力：株式会社アフレル)

都市の課題から生まれたオリジナリティあふれるアイデア。みんなのモビリティの具現化にはこんなアイテムを使います!

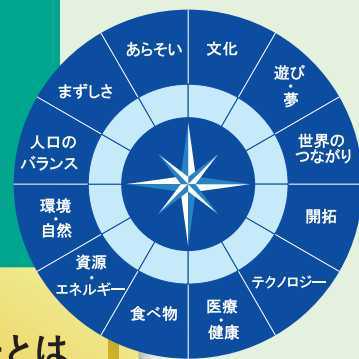
みんなの感想

- ドローンのいいところがよくわかりました。上から見ると見やすかったです。
- ドローンで人が入れないところも見ることができました。
- ドローンは、森とかの整備にも使うことにおどろいた。
- なんでもモビリティだったので、たくさんのおもしろいモビリティが見つかった。カタチを練ることはとてもむずかしく、どのようなカタチにしようか、とても迷ったけれど、便利なモビリティを作ることができた。

次回は9月15日(日)掲載予定です

三井物産「サス学」アカデミーのきろく③
〈4日目〉ワクワクできるPRツールをつくらう
〈5日目〉ジオラマと独創的なモビリティで都市をPR

「サス学」でつくった 豊かな未来都市



意見を出し合ううちに、自分たちの都市を「何とかしたい!」という思いが強くなった。課題もあるけれど、魅力だっていっぱいある。悩んだからこそ生み出したワクワクできる都市とモビリティのこと、みんなに知ってもらおう!

5日間「モビリティ」をテーマに、都市の課題を解決する方法を考え抜いた参加者たち。いよいよ、乗り物や輸送手段を上手に活用した「オリジナリティあふれる五つの未来都市」の発表です。

三井物産「サス学」アカデミーとは

「サス学*」は、サステナブル(持続可能)な社会のためには何が大切かを学び、自分たちができることを考え、みんなに伝える力を育む学びのこと。アカデミーでは食料問題や環境問題、エネルギー問題など、世界のさまざまな「困りごと」=課題の解決に取り組む三井物産の事業を教材として取り入れながら、より豊かな未来に向けてみんなで本気の議論を戦わせます。
*「サス学」は三井物産の登録商標です

「サス学」羅針盤

物事を考える時のヒントとして使う羅針盤。アイデアに詰まったり、考えを整理したいときに繰り返し使います。

4・5日目 それぞれの都市をPR!



後半戦は、これまでに生み出した「スマートシップ」「ドローン」「なんでもモビリティ」の三つをカタチにして、ジオラマで表現した都市を使って発表します。「サス学」ではアイデアと共に「伝える力」を重視するため、ブロックや装飾で見た目にこだわるのはもちろん、モビリティらしい動きのある表現もじっくり検討。各チームが発表に向けて練習を重ねます。そして迎えた本番。空中に浮かぶ住まいや商店、土砂崩れを押さえ込む合体型ロボットなど、暮らしを支える頼もしいモビリティの数々が披露され、個性豊かな都市の様子が伝えられました。「この都市をよりよくしたい」という目標に全力で取り組んだ5日間。発表を終えた参加者たちの笑顔が、その充実ぶりを物語っていました。

宇宙都市チーム

ビッグ・ワン・シティ 宇宙が安心して暮らせる場に

とても広く、人がたくさん住める宇宙都市。地球を離れて暮らす時の課題として健康と安全を重視し、病人のケアや人との交流がスムーズになるスピード輸送の方法を考えました。地球さながらの暮らしができる宇宙船、病院のある星に急行するねこ型の救急モビリティはいずれも衝突事故を防ぐため目立つ色合いに。

海沿いの途上国の都市チーム

海住号 貧困を克服して貿易で栄える

地球温暖化による海面上昇で陸地が沈んでしまうことを想定した海沿いの都市。エコで快適な船で新しい暮らしを始めるために考案したのは海洋ごみを吸着・加工して大きく成長する船。世界のたくさんの港をめぐって貿易をしながら、他国の貿易をサポートするための港・道路型のモビリティを貸し出す。受けた支援への恩返しというアイデアに、みんなが拍手!

砂漠都市チーム

Ça va くーるたうん 緑化が進んだ涼しくてカッコイイ都市

2050年には三つのモビリティによって緑あふれる砂漠が誕生! 観光船でもある砂漠丸が砂を固めて住みやすく整地し、カニ型モビリティのさばっかにの背に植樹して動く森を走らせる。さばっかには、森を監視するさばーばから投下される栄養や、さばくもの人工降水で緑を育む。環境を守り、快適な暮らしをかなえるアイデアが光った。

メガシティチーム

トキオ時織

技術が発展し続ける未来の東京

世界一の大都市になると言われる東京を「時織」と命名。人口が増え開発もどんどん進み、多様な人と交流したりさまざまな仕事に就いたりできる都市の課題は、土地不足と自然破壊。そこで考えたのは宙に浮く家やホテル、商店。人は空で暮らし、地上は緑を茂らせて生き物が暮らす場に。未来の観光の目玉は空中散歩になるのかも!

海沿いの少子高齢化の地方都市チーム

みんながしあわせ村

楽しく安全で新鮮な体験が待っている!

人が少なく楽しめる場所がないことが課題だったまちに、遊園地やビーチなどの観光スポットを設けて集客。豊かな自然ときれいな空気を生かし、遊びに来やすい都市をつくった。自然災害が起きた時には、地面が動く力や炎をエネルギーとして吸収し安全に配慮。四つの都市との貿易を通して生活を豊かにし、みんなをしあわせにする。



長距離移動が多い宇宙では、快適に移動できる部屋型ドローンが大活躍!



熱波や冷気を吸収するさばっくはーで快適な気候に。さばくもAIが水不足エリアを検知して自動で水をまく



多様な意見に耳を傾け 広い視野で考える



三井物産 副社長
藤井晋介さん

災害時だけ現れる堤防、船が入らない浅瀬の港に取り付ける道路など、みなさんの着眼点に感心しました。新しいモノをつくる時には色々な声が上がります。賛成する人もいれば、反対する人、不安を感じる人もいます。この経験を生かして多様な意見を取り入れ、柔軟な発想でモノを生み出す人になってください。

「共に生きる社会」を支える人になろう



三井物産 サステナビリティ経営推進部長
白江喜実子さん

吸収力に優れ、想像力と創造力にあふれるみなさんが、こんな素敵な都市とモビリティをつくってくれたと、うれしく思います。そして都市間で交流して課題を解決していて、頼もしく感じました。相手のことを考えて共に生きる姿勢は、今後の社会に欠かせないもの。その担い手として力を発揮してください。

みんなの感想

- 何十通りもの意見が出て、勉強になりました。これからも、未来のことについて考えていきたいです。
- みんなで発表(プレゼン)をしたり、話し合って思い出になった。
- とても未来のことを考えるきかいにもなったし、とても考えることは楽しかった。次も参加したい。
- 自分の自由な発想をそのまま意見として使ったことがなかったので、ドキドキしていたけれど、最終日のプレゼンでは、協力して1位をとることができて、うれしかったです。
- 新しい友達ができて楽しかった。
- みんなで協力していろいろ成功させることができてよかった。サス学に参加してよかった。また来たい。
- 今日のプレゼンテーションでは、練習通りでした。5日間、楽しかったです!



人に寄り添い助け合う チームワークを大切に



三井物産 サステナビリティ経営推進部
斎藤祐子さん

未来の生活の場と、そこで必要なモビリティを、顧客としてリアルに想像できました。みなさんの発表はすばらしかったです。一人ひとりが役割を担い、チームワークで過ごした5日間、誰一人取り残さないことは、SDGsでも大事な要素です。これから仲間を大切に、助け合う心やこの5日間の経験を忘れずにください。

さらなる成長のため 伝える力を磨こう



「サス学」アカデミー
杉浦正吾先生

5日間で大きく成長したと思います。この経験を将来に生かすため、一つ宿題を出します。それは「伝える力」を磨くこと。人を巻き込んで具現化する力になります。今は中高生が世界を驚かせるプロジェクトを生み出す時代です。今回みんなはその入り口に立ちました。社会に関心を持ち、自分に自信を持って挑戦しましょう。